

とうもろこしサイレージ利用による和牛肉の低コスト生産

県畜産試験場 大家畜部(現、農研センター畜産研究所大家畜部)

研究のねらい

近年の肥育経営においては、飼料のほとんどが購入に依存し、牛肉生産費に占める飼料費の割合は、素畜費に次いで大きいものとなっている。

また、牛肉の輸入自由化を目前にして和牛肉生産の低コスト化が大きな課題となっており、それには飼料費の節減が重要なポイントである。

そこで、単位面積当たりの収量が多く、栄養価も高いとうもろこしサイレージを利用した自給飼料多給型の肥育技術について検討した。

研究の成果

1. 採食量

とうもろこしサイレージを生後6ヶ月齢から給与したところ、生後10から14ヶ月齢では1日当たり15～20kg、15から18ヶ月齢では20～25kgの採食量となった。

2. 増体状況

生後18ヶ月齢程度までは、とうもろこし主体の飼養でも十分な発育を示し、その後の配合飼料飽食による仕上げも順調であった。

3. 肉質

生後23ヶ月齢で肉質を調査したが、若齢肥育の標準的なものであった。

4. 自給率

摂取したTDNの50%をとうもろこしサイレージでまかなうことができ、肥育経営における飼料自給率の目標35%を大きく上回る値となった。

表1 飼料給与量の目安(単位:kg)

月齢	体重(kg)	とうもろこし サイレージ	配合飼料	稲ワラ
6	200			
ゝ	ゝ	10~15	2	-
10	320			
ゝ	ゝ	15~20	2	-
14	440			
ゝ	ゝ	20~25	4	-
18	540			
ゝ	ゝ	-	10	1.5
22	630			
ゝ	ゝ	-	10	1.5

